

# 「衰退語」になる/ならないの違い

阪野文栴 23B41171  
東京工業大学 生命理工学院

## 1.はじめに

RQ:「衰退語」になるかならないかには明確な違いがある

「下駄箱」のように、時代の流れが原因で実体とはかけ離れているが現代でも使われている日本語（ここでは「存続語」と独自に呼ぶ）と、今はあまり使われなくなった「衰退語」には言語学的にどんな違いがあるのかを考察することで、今後どんな言葉が「下駄箱」的存在になりうるかを推測することを目標にする。

## 3.結果

表1: 年齢分布 (回答者 65名)

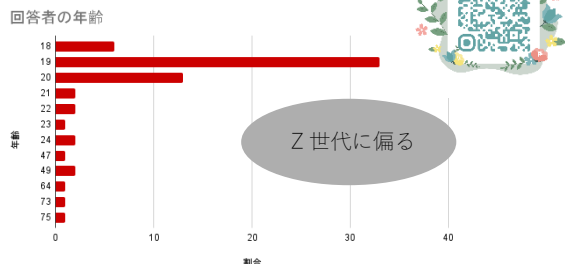
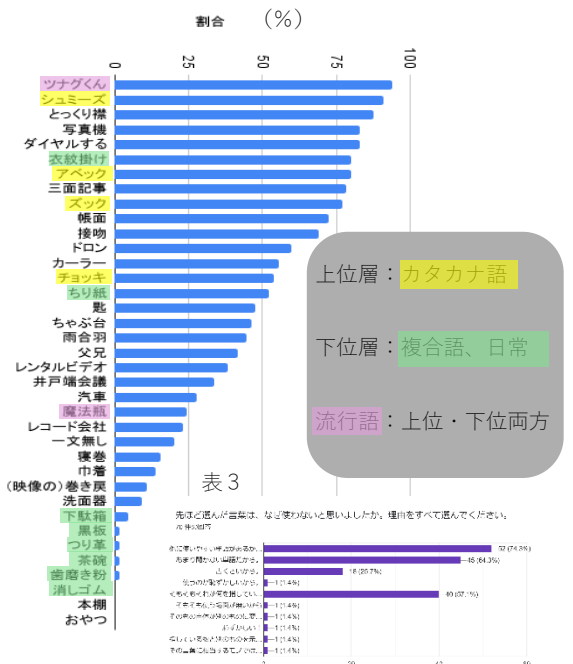


表2: 自分がそのものを指して言う時に、この言葉を使わないと思う言葉 (複数選択)



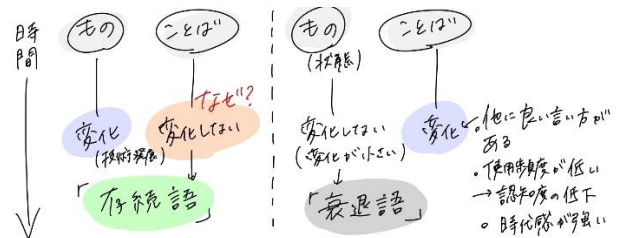
## 2.方法

Google form によるアンケート (以下内容)

- ・年齢
- ・どれが「衰退語」だと思うかとその理由
- ・思いつく「存続語」(任意)

結果から、言語学的な特徴を考察する。

## 4.考察



存続語の特徴として、複合語である割合と、日常での使用頻度が高い。また、流行語が衰退語にも存続語にもなり得る理由として、「参考文献」に記載した文献を参照し「その語があまりにも適切」かつ「その現象が後々まで変わらず続く」という状況の有無に依存するからだと考えた。

## 5.おわりに

問題:「衰退語」になるかならないかには明確な違いがあるか

方法: インターネットによる情報収集・アンケート

結論: 複合語かつ日常での使用頻度が恒常的に高い言葉は「もの」が多少変化しても使われ続ける可能性が高いため、明確な違いがあるといえる。

## 文献

太田彩英 (2020). 「新語・流行語の定着の法則性について」『山口国文』43巻, pp168-148.